# 事業評価シート (平成25年度分)

## 1. 事業の位置付け

<u>」. 事未の世</u> 旦	לונין				
事務事業名	博物館特別展事業				
事業担当	社会教育部 博物館				
事業種類	○ ハード ● ソフト				
総合計画の 位置付け	'01 基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち				
	'02 ②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ				
	'02 2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する				
根拠法令等					
対象•受益者	市民事業期間				
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他 】【協働:館事業参加市民 】				
	目的・目標事業の概要				
学芸員の研究成界	が、市民の知的共有財産となっています。 学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。				

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	特別展開催日数			単位  日		
	説明·算定式	夏期・秋期・春期特別展、	夏期・秋期・春期特別展、企画展、博物館文化祭の開催日数				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標	150	150	160	165		
	実績	161	154	153			
	指標名	特別展関連事業開催	日数		単位日		
77 <del>71 11/14</del> (A)	説明·算定式	期間中の講演会・見学会	ーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
活動指標②		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標	20	20	25	27		
	実績	36	27	32			
	指標名	特別展開催期間中の	別展開催期間中の入館者数				
	説明·算定式						
成果指標①		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標	38000	38000	38600	38700		
	実績	40612	43062	35555			
	指標名	図録売上部数			単位 部		
- <b>L</b> B.L.E.	説明·算定式						
成果指標②		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標	550	550	630	650		
	実績	886	813	346			
	①: 予定どおり						
進捗状況	遅れている	理由					
平成25年度の	主な取組と	<b></b>					

平成25年度の主な取組と成果 夏期「真田・北金目遺跡群」、秋期「蔵出し!びっくり・はてな資料展」、春期「水と生きる里一金目の風土とその魅力一」を開催しました。夏期は社会教育課と共催して埋蔵文化財調査の公開、秋期は博物館で所蔵している資料を「不思議な形」や「見慣れないもの」など新たな視点で展示しました。春期は金目エコミュージアムと連携して地域の魅力を紹介し多数の来館利用を得ました。「博物館文化祭」では博物館に集う市民が地域の自然や歴史の情報を集積した活動成果を展示紹介しました。

平成25年度 の検証結果	B:おおむね成果があがった
の快祉和未	

	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事	必要性	<ul><li>■ 市民ニーズ</li><li>■ 事業目的の達成状況</li><li>■ 市の関与の必要性</li><li>□ その他</li></ul>	特別展は博物館の調査研究、市民との協働による調査の成果を周知し次世代に継承する機能を発揮しています。25年度の事業では地域資料を見る様々な視点に高い満足感が示され、新たなニーズの掘り起しができました。	● 高
業	<del></del>	<ul><li>□ 上位施策への貢献</li><li>■ 市民満足度を高める方策</li><li>■ 継続による成果向上の可能性</li><li>□ その他</li></ul>	特別展は、見たい、知りたい、という市民の知的要求に、実調査に基づいた高い水準で応えています。また刊行図録は限られた展示スペースを補うとともに、高度な情報を提供して、市民に利用されています。	● 高
分析	妥当性	■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他	調査研究、特に市民との協働による調査成果を踏まえつつ、展示や各種講座等を行うことは、地域の人とともに活動し、文化資産としての物や情報を蓄積する、地域博物館の使命と合致しています。	●ののの
	効率性	■ 業務プロセス改善による効率化の方策 □ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他	外注部分を館内製作に切り替える等制作プロセスを見直し、制作経費の軽減に努めました。調査から制作まで、プロセス全般に市民が学芸員とともに参加しており、効率化が有意義に行われています。	● 高 中 低

## 今後に向けた課題の分析

展示制作にあたっては恒常的にコスト削減を図る必要があり、そのための展示手法の研究を継続する必要があります。また、地域博物館として身近な地域資産の意義を発掘し、発信していくために、今後とも市民との協働や他の機関等との連携を進めると同時に、効果的な周知と意見の集約活動によって、利用者層の拡大とニーズへの対応を図る必要があります。

#### 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

<u> </u>	3. 千皮 <b>加</b>				
		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業内容	生物部門等の特別展の 開催	民俗部門等の特別展の 開催	考古部門等の特別展の 開催	天文部門等の特別展の 開催
	国庫支出金	0	0	0	0
財源	県支出金	0	0	0	0
次	起債	0	0	0	0
内訳	その他 特財	1,906	1,762	1,482	1,543
	一般財源	4,190	4,204	4,236	4,641
	事業費(A)	6,096	5,966	5,718	6,184
	執行率(%)	96.21	95.87	91.93	
内訳	職員(人)	1.20	1.07	1.35	1.35
	再任用(人)	0.10	0.10	0.40	0.40
	人件費(B)	10,061	8,917	12,091	11,929
フルコスト(A+B)		16,157	14,883	17,809	18,113

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

### 平成27年度の取組方針

制作コストはスリム化する等見直しをしている状況ですが、そのような中でも展示手法の工夫等により、内容の一層の充実を目指します。同時に、利用者層や実施目的を意識しながら多彩な特別展と関連行事を実施することにより、利用者層の拡大とニーズへの適切な対応を図ります。

#### 課長コメント

博物館の特別展事業は、生涯学習の機会を提供する事業として、市民と協働で調査した成果の発表や、多くの市民の関心に応えるテーマ設定など、さまざまな役割が期待されています。地域博物館の使命を踏まえ、さらなる充実、発展を目指します。